



TITLE:

七夕星を詠める

AUTHOR(S):

CITATION:

七夕星を詠める. 天界 1943, 23(266): 253-253

ISSUE DATE:

1943-08-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/168645>

RIGHT:

内部コロナのハレーションが加はつて、結局同じ様な事になる。f100, 1秒間で撮れるものは大體撮れてしまふ。むしろ自分が今度は最初から、内部コロナを狙つたのは、寫眞としては効果的であつた。ハレーションも、一見した所存在しない(但しこれは一見しただけの事である)。又フィルタは測定目的の外は利用しても駄目である。空には感じなくなるが、同時に外部コロナも又撮らなくなる。赤外線では特に著るしい。いづれにせよ、一概にコロナとは云つても場所に依つて、甚だしく明暗に差があり、其れが現在の乾板の許容範圍を遙かに超へて居る事に留意すべきである。否これは、測定に際しても、充分に考慮して置かねばならない。日蝕に餘り慾張つてはいけない。自分が、三色フィルムに惚れ込んで、充分な試験をせずに使用した事などは其の例である。ましてコロナとプロミネンスの色合を、同時に出さうとするには、未だ感光材料の進歩が必要である。其して最後につけ加へて云つて置き度い。日蝕に行つた以上あの生き生きとした壯觀をば、肉眼で見る事を決して忘れてはいけない。寫眞とはスツカリ異つて居る。自分は、其の感じを出来るだけ正確に記録すべく、努力したのであるが、結果はやはり今迄通りのものしか出来なかつた。肉眼の光量に對する順應力はすばらしく豊かである。天與の武器だ!!特殊の測定に、寫眞は不可缺のものではある。これは否定しない。然し、仲介を経ずに、この天與の武器に依つて、皆既日蝕を觀る事に、人間として、何の恥すべき事があるうか! 少くとも、天文愛好者にとつては!!

— 完 —

七夕星を詠める

七夕はよもさはあらじすばり星	宗 鑑
はなれがたし星に七夕牛に蠅	常 矩
七夕やはだか硯の俄族	芭 蕉
七夕や秋をさだむるはじめての夜	〃
二星恨む隣の娘年十五	其 角
めでたさや星の一夜も葬も	素 堂
肌さむきはじめや星の別れより	乙 由
七夕にかしく身果や竹婦人	〃
田の水の湯と成て星の逢夜哉	鬼 貫
星さまのさゝやき給ふけしきかな	一 茶